

<特集「受動表現」>

イテリメン語の受動表現 Passive voice in Itelmen

小野 智香子
Chikako Ono

北海学園大学
Hokkai-Gakuen University

要旨: 本稿は特集補遺「受動表現」のアンケートの項目に基づき、イテリメン語のデータを提示することを目的とする。

Abstract: The purpose of this paper is to present data of Itelmen (northern dialect) based on the questionnaire for the special issue “Passive Expressions”.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001054>

キーワード: イテリメン語, 受動表現, 受身

Keywords: Itelmen, Passive voice

1. はじめに

イテリメン語（チュクチ・カムチャツカ諸語）は、ロシア・カムチャツカ半島の先住民イテリメンの言語である。かつてはカムチャツカ半島の大部分を占めていたイテリメン語には、かつて東部語・西部語・南部語の3言語が存在していた。現在では西部語のみが残存しているが、話者数は（2025年2月現在、筆者が知る限りは）1桁であり、消滅の危機に瀕している。

イテリメン語の音素目録は次の通りである：母音音素 /i/, /e/, /a/, /o/, /u/, /ə/; 子音音素 /p/, /pʰ/, /t/, /tʰ/, /k/, /kʰ/, /q/, /qʰ/, /ʀ/, /c/[tʃ], /cʰ/[tʃʰ], /m/, /n/, /nʰ/, /ŋ/, /r/, /ɹ/, /s/, /z/, /x/, /χ/, /l/, /lʰ/, /ʋ/, /w/, /j/. 音節構造についての詳細は小野(2021)を参照されたいが、イテリメン語は豊富な子音クラスターが特徴的であり、単音節では最大で語頭に7子音、語末に5子音が結合する例が見られる。そのほか類型論的特徴として、膠着的語形成、主要部標示と従属部標示の混在型、名詞の格標示における中立型アラインメントなどが挙げられる。

本稿で使用する受動表現については、筆者によるイテリメン語北部方言のフィールド調査（ロシア連邦カムチャツカ地方チギリ村）により得られたテキストから、特集補遺「受動表現」のアンケート項目に近いと思われる文を取り上げる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

イテリメン語における受身文の基本構造は、次の通りである¹。

動作主名詞句：場所格 被動者名詞句：絶対格² 受身-動詞-被動者の人称・数（受身）

名詞句は文脈によっては明示されない場合もある。

2. データ

イテリメン語の受身文は、(1)のように動作主「彼の子」が場所格、被動者「私たちの友」が絶対格で標示され、述語動詞が受身の接頭辞 *n-* を取り、人称接尾辞は被動者の人称を標示する。被動者の人称・数は、能動文における他動詞の活用とは部分的に異なる形態を持つ（小野 2021:65-69, 118-123 参照）。

[1] (1) *ənan p'ec-enk məzwin iptɕ n-ləm-Ø-cen.*
 1SG.POSS 子-SG.LOC 1PL.POSS 友-SG.ABS PASS-殺す-PST->3SG.PASS
 「彼の子に私たちの友人が殺された。」(JNS20050827)³

動作主および被動者が定か不定かは、受身文の構造・形態に影響しない(2)。

[2] (2) *elaq k'e-nk n-ləm-a-s-um.*
 あたかも 誰-SG.LOC PASS-殺す-DES-PRES->1SG.PASS
 「私はあたかも誰かに殺されるようだ。」(IAD20100829)

(3)は被動者が無生物「家」、かつ動作主が標示されていないタイプの文である。

[3] (3) *məzan-k kist n-sk-Ø-cen.*
 1PL-DAT 家-SG.ABS PASS-作る-PST->3SG.PASS
 「私たち（のため）に家が建てられた。」(PLE20040831)

(3)における *məzan-k* は場所格のようにも見える（北部方言では場所格と与格が同じ形態となるケースが多い⁴）のだが、ここでは与格である（ロシア語訳‘нам дом построили’）。

「(言語が) 話されている」という文は受身形では記録されておらず、(4)のように主語が 3 人称複数形の自動詞文となる。

¹ イテリメン語の受身について、北部方言は小野(2021:118-123)、南部方言は Володин (1976: 263-271), Georg & Volodin (1976: 163-164)を参照されたい。

² イテリメン語は名詞の格標示において、自動詞主語 S, 他動詞主語（動作主）A, 他動詞目的語（被動者 P）の格が全て同じ、絶対格を取る、中立型アラインメントである。

³ 未発表の例文については、末尾に発話者のイニシャルと記録した年月日を付す。それぞれの生年は次の通り：JNS 1926 年生女性，IAD 1934 年生女性，CNI 1937 年生女性，PLE 1938 年生女性。詳細は小野 (2021:13-15) を参照されたい。

⁴ イテリメン語北部方言の与格と場所格は多くの場合同じ形態 $-(e)nk\sim k$ をとる。なお南部方言では、与格が $-(a)нке$ 、場所格が $-(e)nk$ であり、形態的に区別される。

- [4] (4) *kij niqa wi-z-in, znacit i c'amzaleʔn niqa*
 川.SG.ABS 速く 流れる-PRES-3SG すなわち そして 人間.PL.ABS 速く
Ø-kərwellat-ez-iʔn.
 IND.3-話す-PRES-3PL.S

「川が速く流れる, すなわち (そのような場所では) 人々は速く話す。」 (CNI20110817)

「盗まれる」について, (5)を挙げる. なお(5)における被動者は有生(「牛」)であるが, 無生物の場合でも構造や形態に違いはない.

- [5] (5) *vod'eren enu korowa-cʰ n-c'iri-t-qzu-Ø-cen.*
 しょっちゅう この 牛-SG.DIM.ABS PASS-盗む-ITER-DUR-PST->3SG.PASS
 「この牛はしょっちゅう盗まれていた。」 (CNI20080826)

「掛けられている」のような状態を表す場合, (6)のように他動詞の形動詞形で受身を表すことがある. 他動詞の形動詞形は被動者の数に一致する.

- [6] (6) *xajen-in sap əzan-k k'-ənt'ajna-ʔan nin.*
 狼-MDF.SG 毛皮.SG.ABS 外-LOC PTCP-吊るす-PTCP.SG 3SG
 「狼の毛皮が外に吊るされている。」 (PLE20070305)

「みんなから愛されている」のような文は通常受身の構造を取る(7).

- [7] (7) *mitanaʔnk na li c'inəq n-əl'icku-qzu-Ø-cen.*
 皆.PL.LOC 3SG.ABS とても よく PASS-見る-PST->3SG.PASS
 「彼女はみんなにととてもよく見られていた (=好かれていた) .」 (CNI20080824)

略号

1 : 1 人称 2 : 2 人称 3 : 3 人称 ABS : 絶対格 DAT : 与格 DES : 願望 DIM : 指小
 DUR : 継続 IND : 直説法 ITER : 反復 MDF : 修飾形 LOC : 場所格 PASS : 受身 PL : 複数
 POSS : 所有 PRES : 現在 PTCP : 分詞 PST : 過去 S : 主語 SG : 単数 > : 被動者

参考文献

Georg, Stephan, Alexander P. Volodin, 1999. *Die itelmenische Sprache. Grammatik und Texte*. Wiesbaden: Harrasowitz.

Володин А. П. 1976. *Ительменский язык*. Ленинград: Наука.

小野智香子. 2021. 『イテリメン語文法 -動詞形態論を中心に-』 北海学園大学出版会.

執筆者連絡先 : c-ono@hgu.jp

原稿受理 : 2024 年 12 月 20 日